

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『無料じゃない無料のありがたさ』

町田市立木曽中学校 3学年 湊川 莉菜

新学期が始まった日、私は母と家で学校給食の話をしていました。そのとき母は、

「給食費が無料になったらしいよ」と、母は私に言ってきました。私はそのとき、無料って誰が払っているのだろうと疑問に思いました。母に聞くと、税金でまかなわれていると教えてくれました。私は実際に無料じゃない無料の存在に初めて気がつきました。

私は今まで当たり前のように食べていた給食は税金によってまかなわれていることを知ってから給食についての考え方が少し変わりました。私が食べている給食を食べていない人たちが支えてくれていること、働いている大人の方々。無料の背景には私に見えていない多くの人の支えがありました。そしてさらに調べていくと、国によって給食費の制度が異なることも分かりました。町田市では無料になったけれどカナダやオーストラリアなどはまだ有料のままだったのです。世界の中で同じように学校に通っていても学校給食が無料かどうかが違うのは不思議に思いました。なぜ国によって支援の仕方が異なるのか。それは、国ごとに使える予算や優先されることが違うからだと分かりました。つまり、税金は限られた中で何を大切にするかを決めてから使われていると考えました。このことをもっと知りたくて国の具体的

な給食事情を調べてみました。たとえば、アメリカでは給食そのものが選択制で、お弁当を持ってくる生徒も多いです。貧しい子どもには、無料や割引きなどで給食が提供される制度がありますが手続きが必要だったり、周りとの差がつかってしまうなど、問題が多いそうです。イギリスでは学校給食はありますが、無料なのは主に五〜七歳の子どもや低所得家庭の子どもに限られています。それ以外の家庭は有料で条件付きの支援を受けるには申請が必要です。それに比べて日本は、みんなが同じものを食べることを大事にしているのかなと思いました。それが一律に無料になった地域では、だれもが平等に食べられるという安心感があります。ですが、その平等も見えないところで支えられていると思うと私は今まで以上に給食を大事にしたいと思いました。

私は今、給食を無料で食べています。ですがそれは、本当の無料ではありません。誰かが働いて納めた税金のおかげで成り立っています。この無料じゃない無料を私は当たり前だと思いたくないです。これから私が税金を払う立場になったときには今まで支えてもらった給食を今度は恩返しする立場になりたいです。世界には、給食を食べられない子どもや制度で苦しんでいる家庭もあります。だからこそ、今私が受け取っている無料には大きな意味があると思います。なので私は、
「今日もありがとう」と心の中で言いながら給食を食べたいと思います。